

種子島安納いもに対する住民の思いの違い ～自治体別、年代別調査からわかること～

法文学部3年 林田洵哉

○課題意識

2022年度の地域リサーチ・プログラムで種子島を訪れた際、行政は種子島安納いもをさらに推進していきたいと考えていた。しかし、種子島住民の中には種子島安納いもが好きではなく、島外に売り出して行く必要もないのではないかと考えるという方もいた。そこで行政と種子島住民との間にあるギャップに問題意識を感じた。そこで種子島住民の種子島安納いもに対する正直な思いが知りたいと思い、調査を行った。

○現状

- ・2010年 「安納いもブランド推進本部」を設立
(栽培技術の向上、品質基準の統一)
- ・K-GAP (かごしま農林水産物認証制度) の認証の取得が必要
- ・「安納いも認証シール」
- ・2022年3月に地理的表示 (GI) を取得
「安納いも」→「種子島安納いも」
- ・種子島=安納いも イメージ定着へ

○問い

種子島行政 (西之表市役所・安納いもブランド推進本部など)



種子島住民の方 (西之表市民・中種子町民・南種子町民)

安納芋身近なもの→価値に気づけず

種子島安納いもに対する思いが薄い傾向にある人々の明確化
→魅力を伝えるべきターゲットの明確化

意識調査

- ① 自治体別 (西之表市・中種子町・南種子町) での種子島安納いもに対する思いの違いはあるのか?
- ② 年齢や性別によって種子島安納いもに対する思いの違いはあるのか?

認証シールが張られた安納芋



日本甘藷栽培初地の碑



○調査方法

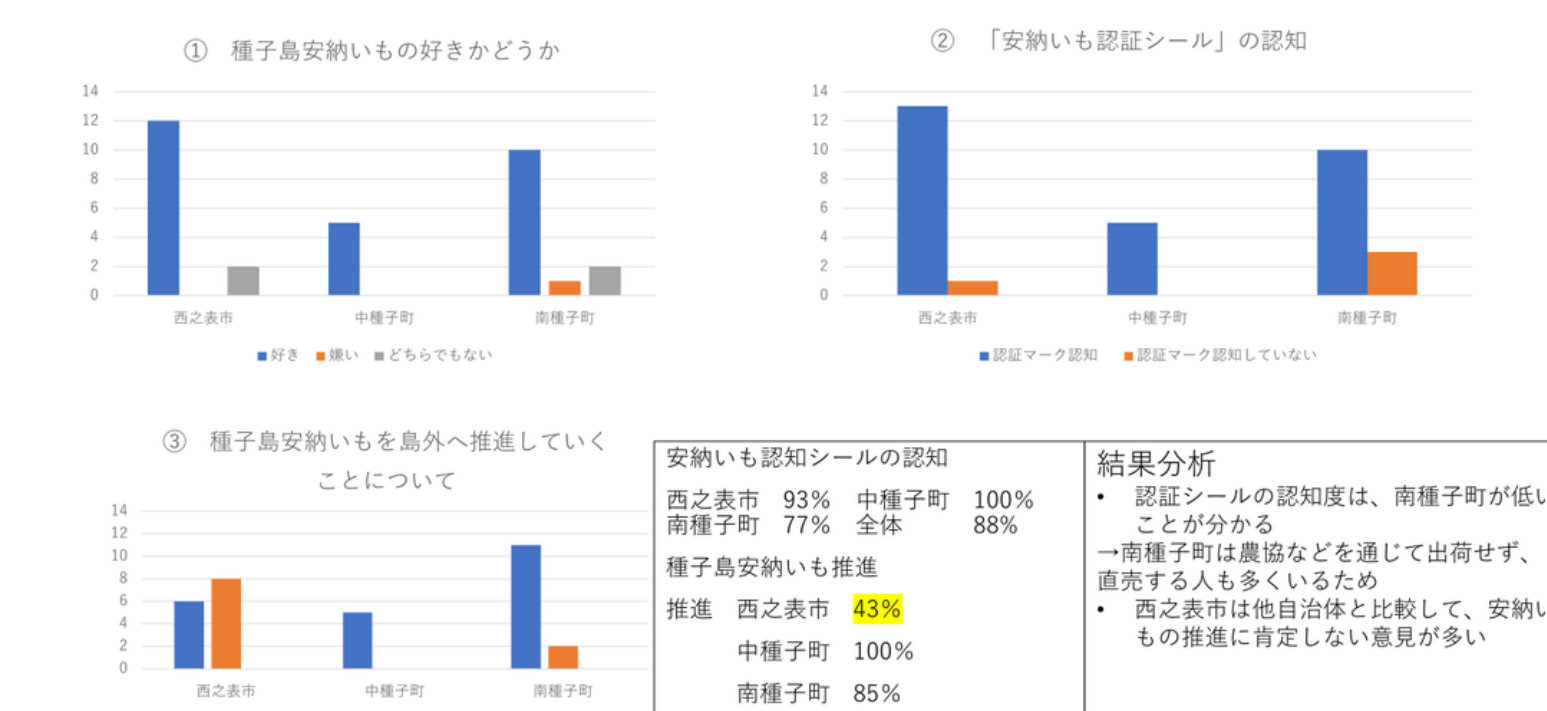
種子島 (西之表市・中種子町・南種子町) のスーパーや物産館などのお客さんにインタビューを行い3つの質問をする

質問内容

- ① 種子島安納いものが好きか嫌いか
(好き・どちらでもない・嫌い)
- ② 「安納いも認証シール」の認知
- ③ 種子島安納いもを島外へ推進していくことについて
(推進・推進しなくても良い)

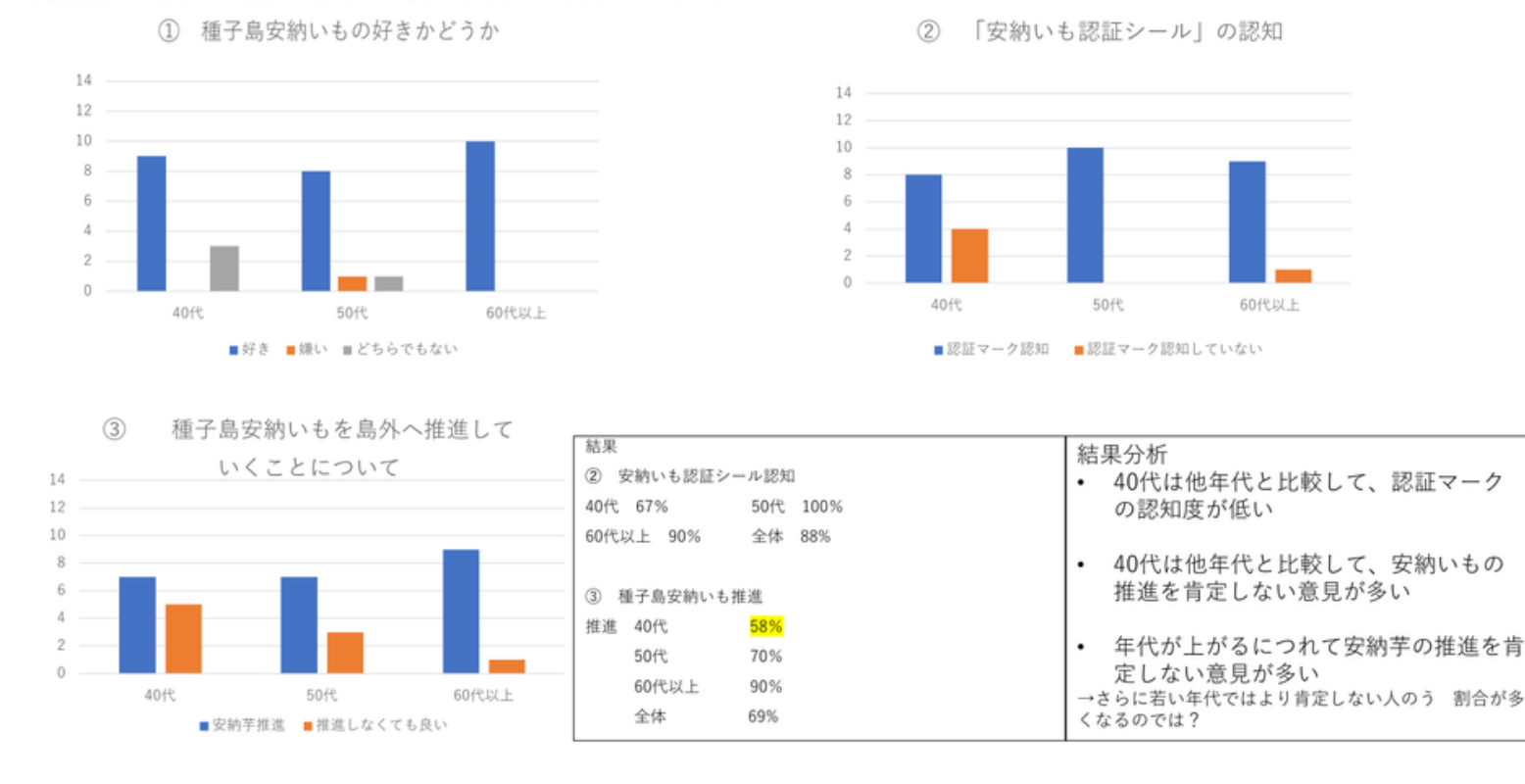
○調査結果

自治体別比較
回答数 32人 (西之表市 14人 中種子町 5人 南種子町 13人)



結果分析
・ 認証シールの認知度は、南種子町が低いことが分かる
→南種子町は農協などを通じて出荷せず、直売する人も多くいるため
・ 西之表市は他自治体と比較して、安納いもの推進に肯定しない意見が多い

年代別比較
回答数 32人 40代 12人 50代 10人 60代以上 10人



○考察

行政と住民の間のギャップはある

- ① 自治体別の思いの違いあり
西之表市の住民の意識が薄い
- ② 年齢別の思いの違いあり
40代以下の住民の意識が薄い

- ・若い世代+西之表市民をターゲットとして活動していく
- ・西之表市は、3自治体の中でも一番人口が多い
→より多くの関心を集めることができる

提案①

ターゲット：西之表市民+40代以下

内容：イベントの開催

目的：種子島安納いもの魅力を伝え、島外へ推進することに肯定する人を増やす

家族連れ



西之表市

提案②

農家のまとまり

農家同士の連携→島外にある安納芋に負けない品質

安納いもブランド推進本部を中心に3自治体のまとまり